

平成23年度学校評価表

府中市小中一貫教育推進プラン

「9年間を通して、すべての子の可能性を最大限に伸ばす教育」
元気いっぱいの府中っ子の育成・かかわりの中で育つ子どもたち

- 確かな学力(考える力 正しい知識)
- 豊かな心(思いやる心 感じる心)
- 頑張る体力(丈夫な体 規則正しい生活)

1 学校教育目標

上下学園教育目標
「確かな学力を身につけ、心豊かでたくましく生きる児童・生徒の育成」

上下北小学校教育目標
「伸びよう！上下北の子どもたち！感動とよろこびの教育をめざして」

《めざす子ども像》

- やる気 進んで学ぶ子ども
- 笑顔 明るく、かかわり合う子ども
- 元気 元気で、ねばり強い子ども

2 経営理念

「21世紀をたくましく生きる基礎・基本の力が定着した児童の育成」
— 地域・家庭とともに歩む学校 —

21世紀をたくましく生きぬくため、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を図る。そのため、学校の教育力を高めるとともに、家庭・地域との連携を深めながら家庭の教育力も高め、「確かな学力」「豊かな心」「頑張る体力」など、生きる力の基礎・基本の力が定着するように指導の徹底を図る。

3 研究主題

(1) 学園研究主題

言語活動の充実で育む、豊かな心と確かな学力

(2) 本校研究主題

言語活動の充実で育む、豊かな心と確かな学力

—問題解決場面において、筋道を立てて考える力を高める算数科学習指導の工夫—

4 今年度の重点目標及び設定理由

重点目標	設定理由
○基礎基本の学力の定着を図る。	昨年度は、県・全国の学力調査において、県平均を下回る教科があった。算数的活用問題や基礎・基本未定着児童への指導を継続し、さらに分かる授業づくりに取り組んでいく。
○ていねいな言葉遣いができる児童に育てる。	友達を大切にする言葉遣いや敬語の使い方を指導し、豊かな心を育てる。
○基礎体力の向上を図るとともに、児童の安全意識を高める。	体力テストの結果、「握力」が課題である。また、学校災害数の減少をめざし、児童の安全意識を高める取組を推進していく。

5 評価基準

- 4 (十分達成した) 目標値より5%以上高い 3 (達成した) 目標数値%
 2 (もう少し) 目標値より10%以上低い 1 (できなかった) 目標値より20%以上低い

※自己評価 : 評価基準に則り、4段階で評価し、記入する。評価指標は各校で定めること。

※学校関係者評価 : ○月の自己評価に対して自己評価結果が、適正である : ○、適正でない : ×、適正かどうかわからない : △として、記入する。

※この様式は、各校年間評価計画に則り、7月、12月、に活用し、中間報告はHPで公開し、最終評価結果を市教育委員会に報告すること。

推進 プラン	小中一貫教育	中期経営目標	短期経営目標	目標達成の為の手立て	評価項目	自己評価		学校関係者評価		改善計画
						7月 評価	結果と課題の説明	7月 適正	意見等	改善案
確かな学力	基礎・基本の学力の定着を図る。	○国語科・算数科における基礎学力を定着させる。	・漢字や計算等のドリルの時間を設定する。 ・補習を計画的に実施する	・単元末テストで85%以上達成する。 ・全国学力学習状況調査、基礎基本定着状況調査の結果を、それぞれ県平均より5ポイント上回る。	3	朝ドリル、漢字ドリルは継続して出来ている。がんばり学習を計画的に実施したがさらに継続して取り組みが必要である。	○	基礎学力をつけることも引き続き努力してほしい。それとともに自分の考えを	・朝ドリル、漢字ドリル、がんばり学習は継続して実施し引き続き基礎学力の充実を図りたい。	
		○家庭学習の習慣化とその充実を図る。	・漢字、計算、本読み、書くこと（高学年は自主学習）を全学年で実施する。	・家庭学習をしていく児童の割合を90%以上にする。	3	家庭学習の習慣化はほぼできているが個別の指導が必要であるとともに家庭との連携が必要である。	△	きちっと言えるコミュニケーション力をしっかりつけてほしい。そのためには、自分の考え	・家庭学習の習慣化を全員のものにするために課題がある児童については、個別に家庭と連携を図る。	
		○授業力の向上を図る。（小中連携）	・算数科の研究を推進し、授業改善を図る。	・算数科授業で言語活動を使って表現した児童を80%以上にする。	2	ノートの筆記は充実してきたがさらに指導が必要である。説明の仕方を練習したりペアトーク等で学習を深めていく。	○	を持ち表現する力を培ってほしい。	・思考の過程が分かるようにノート作りを今後も充実する。	
豊かな心	人とかかわりを大切にし、思いやりのある言動ができる児童に育てる。	○読書に親しむ児童に育てる。	・朝読書と家庭読書を行う。 ・読書記録をつける。	・1・2年は月6冊以上、3年以上は月4冊以上読む。	3	読書カードの取り組みの効果を出すことができた。家庭読書については、家庭との連携を深めていきたい。	△	読書とともに、新聞を教育の中にしっかり取り入れてほしい。	・読書カードの取り組みを今後も充実し、本に親しむ児童を増やしていく。	
		○ていねいな言葉遣いのできる児童に育てる。	・児童の言葉遣いを定期的に点検する。	・ていねいな言葉遣いのできる児童を90%以上にする。	2	ていねいな言葉遣いのできていない児童がまだ多い。どのような言葉遣いをすべいか指導内容を明確にする必要がある。	△	家庭でも新聞を読む課題を出してもいいものではないか。場に応じた丁寧な言葉	・場に応じた丁寧な言葉遣いのできるよう指導していく。	
		○隅々まできれいに掃除ができるようにする。	・縦割り班で掃除をする。 ・指導者が必ず掃除指導をする。	・掃除を時間いっぱいできる児童を85%以上にする。	3	高学年がリーダーシップをとっている。時間いっぱい掃除ができていない児童や班については今後も続いて指導が必要である。	○	遣いのできるように機会をとらえて家庭とも連携しながら指導してほしい。	・縦割り班活動を充実し高学年のリーダーシップが取れるよう指導を継続する。	

頑張る体力	基礎体力・運動能力の向上を図る。	○体力テストの種目が、県平均を上回るようにする。(重点課題：握力)	・課題解決に向けたサーキットトレーニングを行う。 ・鉄棒、登り棒、うんていに取り組む。	・新体力テストを年2回実施し県平均を上回る項目を65%とする。 ・逆上りのできる児童を20%向上させる。	2	体力テストで、県平均を上回った項目は47%だった。逆上がりの指導は2学期に実施したい。	○	校内安全マップは子どもたちの安全意識向上のためにぜひ作ってほしい。また、そのために、道徳や読書を通して自分や人の命を大切にすることの感性を培う指導も続けてほしい。	・サーキットトレーニングや業間体育の活動を継続し、基礎体力や技能向上を図る。 ・生活アンケートを実施し課題を明確にし家庭と連携を図る。 ・安全マップを作成し、児童に安全について自覚した行動が取れるように指導する。
		○「早ね・早起き・朝ご飯」の習慣化を図る。	・アンケートを実施して、家庭への啓発を図る。	・早寝早起きの目標時刻が守れる児童80%以上にする。	2	早寝80%、早起き64%で早起きに課題がある。	○		
		○児童の安全意識の向上を図る。	・校内安全マップを作成して、注意力を高める。	・日本スポーツ振興センターへの申請数が10%減少する。	3	23%減少させることができた。今後校内安全マップを作成するなどして、事故防止に取り組む。	○		
信頼される学校	教職員の資質、指導力を向上させる。	○組織的に実践できる人材を育成する。	・評価表の各担当で7月と12月に進捗状況を把握して取り組む。	・自己評価の平均を7月時点では3以上、12月時点では3.5以上にする。	2	教職員の自己評価は2.5である。	△	先生方の日頃の取り組みと成果を考えると2では評価は低いのではないかと。今後も子ども、学校、保護者の3者がしっかりタッグを組めるように取り組んでほしい。	・各分掌で今後の課題について取組を進める。